



スリランカ 緊急食糧支援プロジェクト 最終報告

Dec 2022

タイムライン

- May 2022: スリランカのデフォルト懸念とともに、原油の枯渇と急速なインフレがはじまる

Jun 2022: 食糧支援プロジェクトを決定

現地の厚生省との協議を開始、特にリスクの高い妊婦を選定してもらうことに

現地のスーパーマーケット大手のCargill社と協議し、割引で食料券を購入することを約束

Aug 2022: 可能な地域から食料券の配布を開始

Sep 2022: 約1500万円をファンドレイズ完了、月末までに半分以上の食料券配布を完了

Oct 2022: 8割の対象に食料配布券を完了(厚生省の名簿変更などがあり、ロジに若干手戻りが発生)

Nov 2022: 7,436人の妊婦に食料券の配布を完了

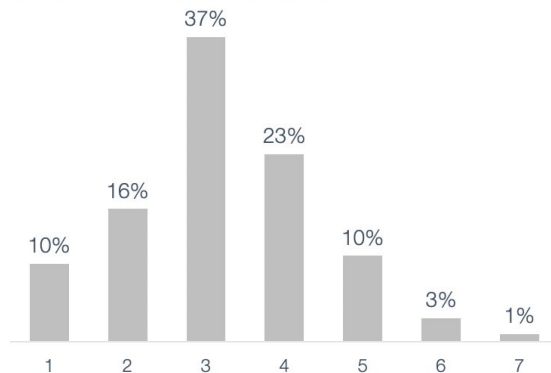
受益者の状況 (n=105)

シングルマザーが1割であり、大多数の人々にとっては一人以上の子どもがいる状況。

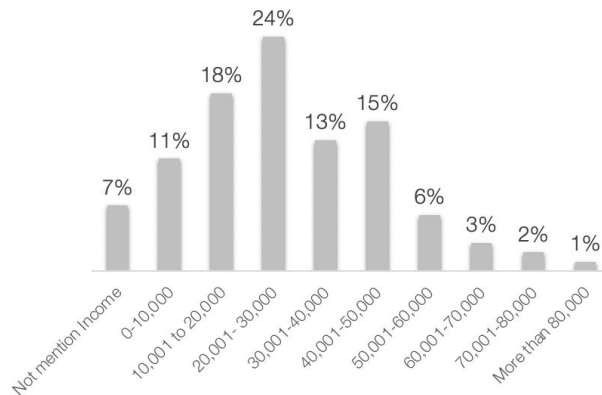
現状の物価を考えると(1週間の食費が5000ルピー程度)、大多数の人々が食料を得るのにも困る状況。

健康に深刻な問題がある妊婦は全体の12%。

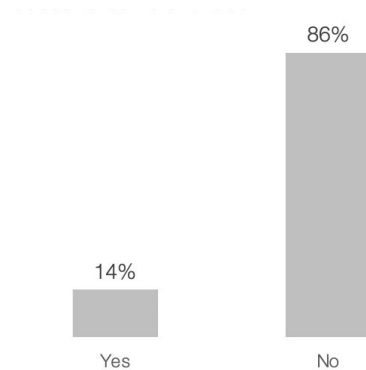
家計の人数



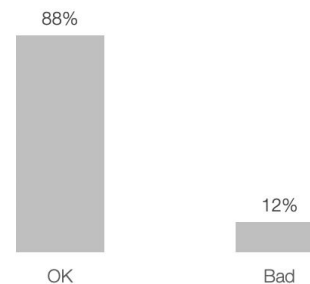
収入の分布(スリランカ・ルピー)



食料に十分なアクセスがあるか



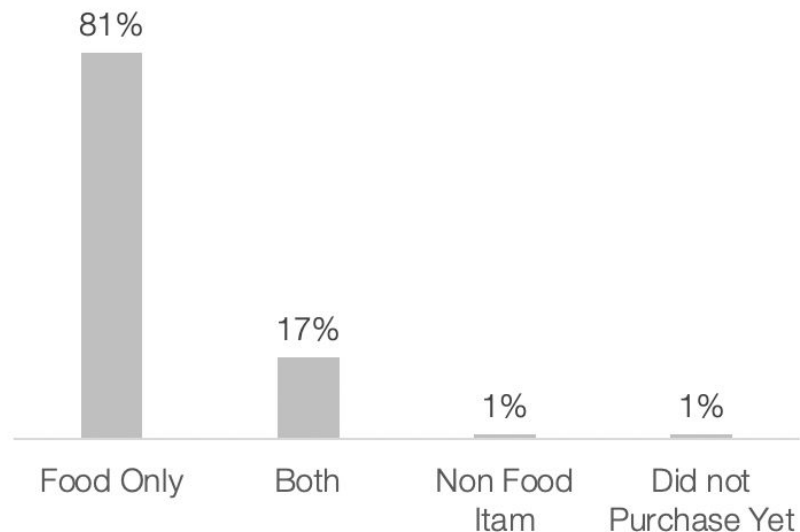
妊婦の健康状態



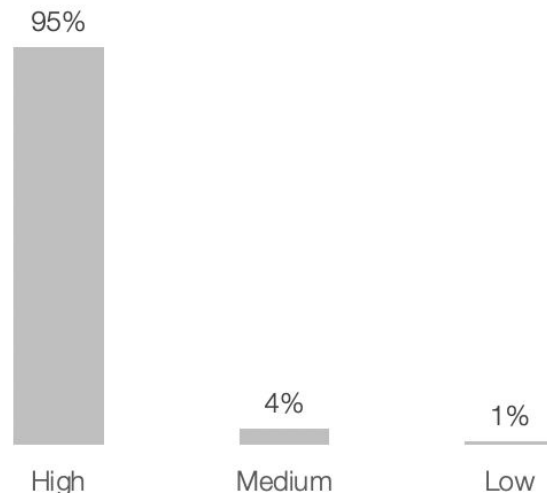
食料券の使途とインパクトについて (n=105)

ほとんどの受益者は食料券を即座に用いたと回答。食料券は地元のスーパーマーケットで使用され、ほとんどは食料に用いられた（それ以外は雑貨などの生活必需品）。95%の受益者が、「かなりインパクトのある支援であった」と回答している。

購入したもの



「どの程度インパクトがあったか」に対する回答



受益者の写真



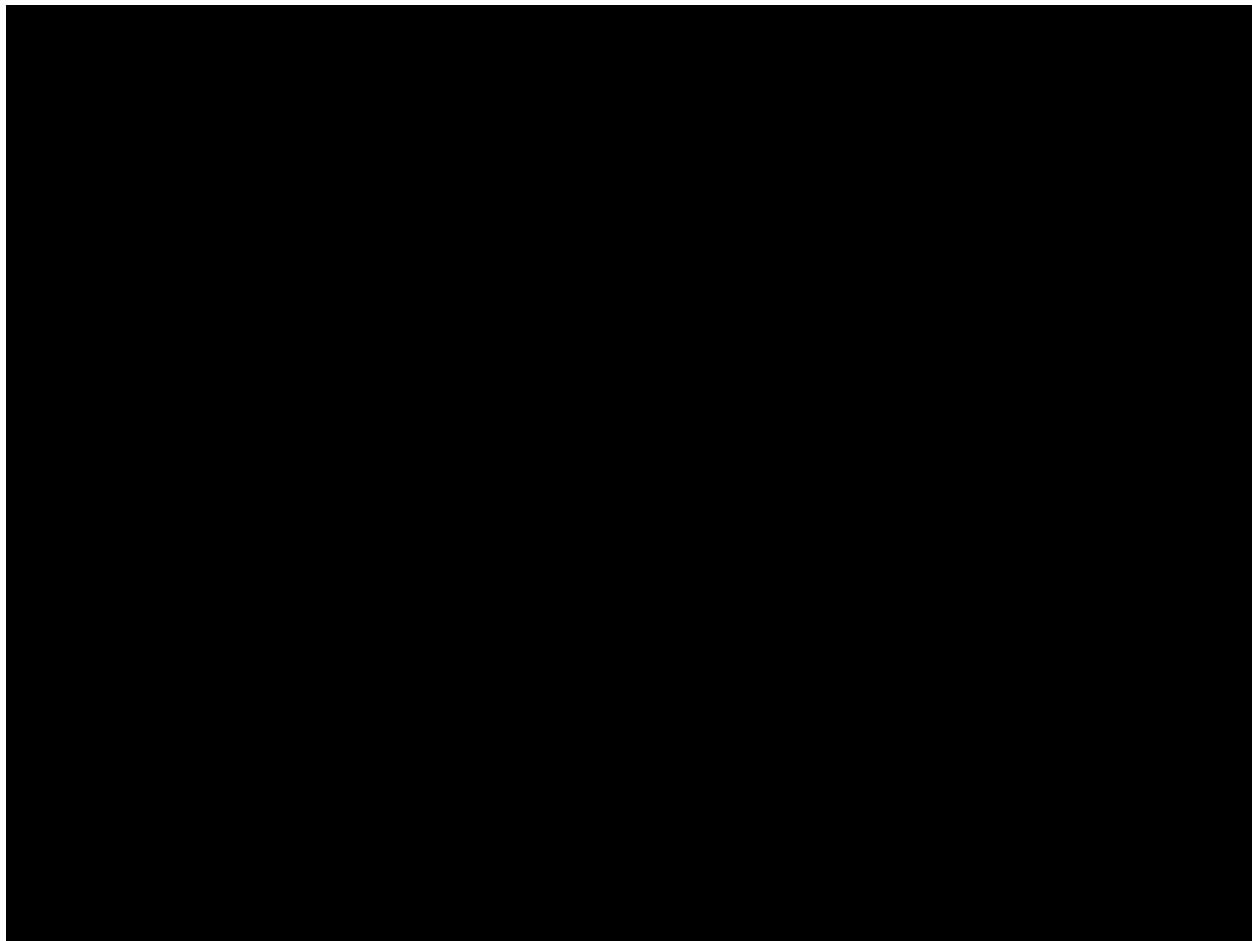




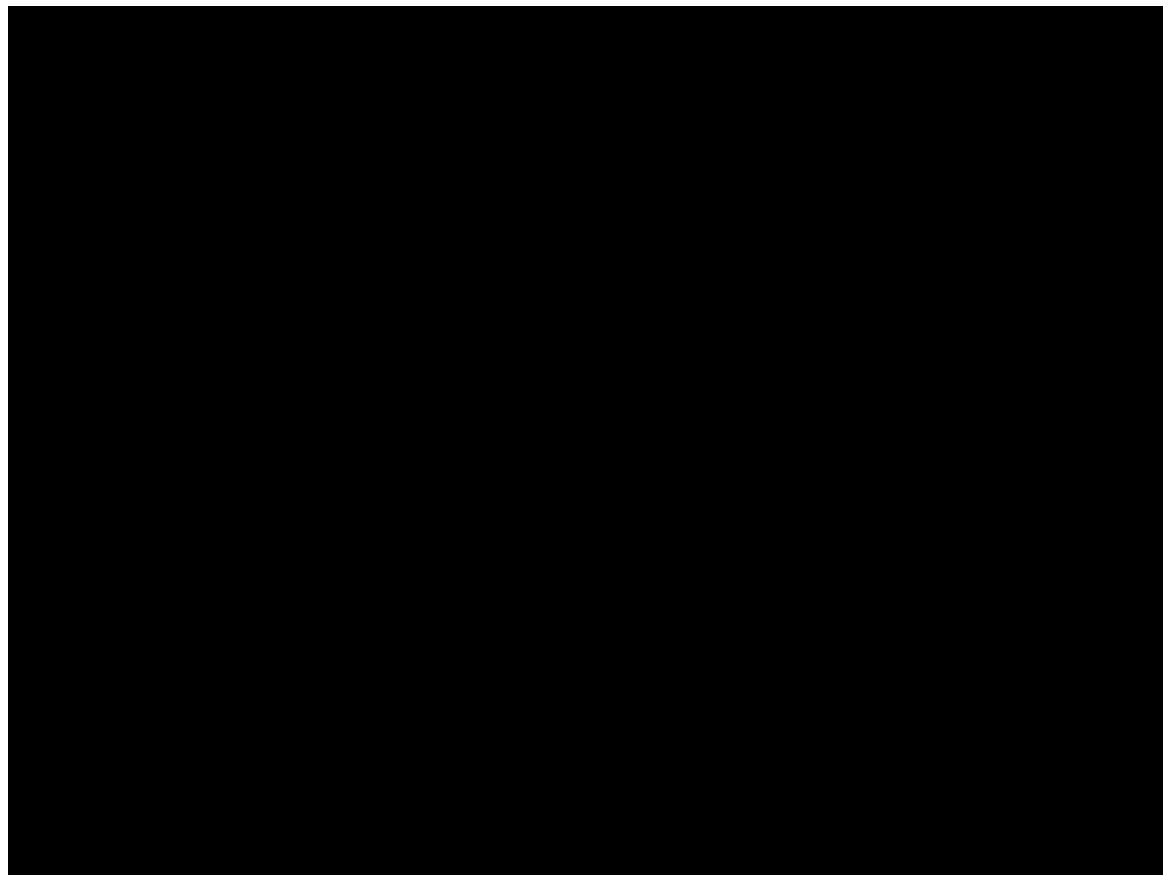




(参考)生活が相対的に苦しい家庭



(参考) 比較的裕福な中産階級の生活風景



振り返り

全体の振り返りと今後望まれること

振り返り

- 全体として、とても意味のあるプロジェクトとなった。現場で活動するejaya社の従業員からも手応えが感じられたとのこと
- **緊急支援における強み**: 五常・アンド・カンパニーが各国でグループ会社を経由してオペレーションを有しているため、緊急支援の速度は五常財団の大きなアドバンテージ。現時点でも国際機関や国際GOの支援は全く届いていないとのこと。
→緊急支援用の資金調達を予めしておくことで、今後より早く動くことができる
- **フィナンシャル・ダイアリーズプロジェクトの意義** 今回の問題の深刻さを具体的にすぐに理解できたのは、現地の00人の人々の家計簿を詳細に把握するプロジェクト(Financial Diaries Project)を行っていたため。
→今後、より多くの国で同様のプロジェクトを展開していきたい

